

令和3年度第3回指定管理者審査委員会 議事録（要旨）

日 時 令和3年9月30日（木） 午後1時30分から午後3時30分まで
 場 所 市役所本庁舎4階第1会議室
 出席委員 亀倉正彦、関千里、平家勉、上田信子、伊藤三郎（敬称略）
 欠席委員 なし
 事務局 石川達也（総合政策部長）、和田徹（同部調整監）、杉田武史（同部次長兼企画政策課長）、安彦直美（同課課長補佐）、山浦勝義（同課企画経営係長）、中根友樹（同課企画経営係主事）

説明の為に出席した者 川本賀津三（こども未来部長）、棚瀬浩三（子育て支援課長）

傍 聴 不可（日進市情報公開条例第7条第6号に該当する事項を審議するため。）

議 題 (1) につしん子育て総合支援センターの指定管理者の候補者の審査（第2次審査）について

発 言 者	内 容
	1 開会
	2 あいさつ
事務局	それでは、進行を委員長にお願いします。
委員長	会議の非公開の可否について諮る。
委員	（異議なし）
	3 議題 (1) につしん子育て総合支援センターの指定管理者の候補者の審査（第2次審査）について
ファミリーステーション Rin	（事業提案書に基づきプレゼンテーション及び質疑応答）
	（主な質疑応答） 質問：につしん子育て総合支援センターは主に4つの事業を実施しているが、「管理運営実績」に記載のある「年間利用者数」は、どの事業の利用者の数字か。利用者数とは子どもの数か、親の数か。 回答：「地域子育て支援拠点事業」の利用者数であり、支援センターに来られた親子の数である。 質問：利用する子どもの年齢層はどのくらいが多いか。年齢別の統計は取っているか。 回答：毎日年齢別に集計しており、0～2歳児が半数以上である。長期休みのときは保育園や幼稚園の児童が増える。 質問：利用者支援事業の相談支援は、事前に予約して利用するのか。 回答：予約して来られる方もいれば、センターに来られた折に相談に移行する方もいる。他の関係機関から連絡があって相談につながる場合や、こちらから

発 言 者	内 容
	働きかけて相談につながる場合もある。
	質問：令和2年度に大幅に増えているが、要因は何が考えられるか。
	回答：新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出が制限され、出産後に家族などからの援助が受けられない親が多くなり、支援センターへの相談が増えたのではないかと考えられる。
	質問：ファミリー・サポート・センター事業は、新規依頼件数とマッチング率の記載はあるが、全体の利用者数はどのくらいか。
	回答：全体の依頼件数としては、2020年度に3,000件くらい利用があった。
	質問：養育支援訪問事業というのは、実績としてはどのくらいか。
	回答：昨年度は全体で16件の家庭を訪問し、1家庭につき年60時間を上限として1回2時間、年30回まで訪問できるが1、2回で終わる方も多く、全部で年600時間くらい訪問したかと思う。
	質問：養育支援訪問の対象者の発見方法はどのようか。
	回答：基本的に保健センターの3～4か月健診等の際に相談に乗って、家庭訪問が必要と判断され、支援センターに連絡があって家庭訪問した後、会議を経て養育訪問支援となることが多い。
	質問：「施設の管理運営に必要な人員」の配置について、養育訪問支援の支援員が常勤2名とパート1名となっているが、仕様書の人数要件と合っているか。
	回答：養育支援訪問の担当者は、ファミリーステーション Rin においては常勤で雇用しているが、支援センターの方は支援拠点と半々くらいで按分して配置している。
	質問：1日の勤務者の人数が、利用者支援で2～3名、養育支援訪問で1～2名となっているが、仕様書の配置では利用者支援が3名以上、養育支援訪問が2名以上となっている。仕様書の人数に合わなくても良いか。
	回答：基本的に仕様書の人数で配置している。シフト例では曜日によって入っていない日があるが、所管課と調整させていただく。理解が違っていたら申し訳ない。
	質問：収支内訳書の人件費について、例えば令和4年度で見ると、利用者支援事業は、専任の常勤2名、専任のパート2名、兼務のパート1名となっており、職員の配置と雇用形態の人数として定められている数字と合っていない気がするが良いか。
	回答：人数としては合っている。令和4年度の利用者支援事業で、職員の配置と雇用形態の部分ではIT支援員をパートとしているが、法人の常勤職員が兼務しており、IT支援員としての勤務が週1日なのでパート扱いとした。人件費は勤務日数で按分している。養育支援訪問事業も同様に、常勤2名は勤務日数に応じてパート扱いとし、按分している。
	質問：常勤、パート等の記載方法を整理していただけるとありがたい。
	回答：分かりにくい記載で申し訳ない。
	質問：日進市には子育て支援センターが何か所かあるが、子育て総合支援センタ

発 言 者	内 容
	<p>一と、他の地域子育て支援センターとの立場上の違いや、関係性はどのようなか。</p> <p>回答：位置づけとしては並列だと思っているが、機能的には総合支援なので、いわゆる国の子ども子育て支援の拠点事業を行っているという違いがある。他の子育て支援センターとは、子育て支援課の会議と一緒に参加している他、個別の交流やセンター連絡協議会への参加等により、横の連携はさせていただいている。</p> <p>質問：法人の損益計算書について、受取会費・受取寄附金の収益が 0 となっており、損益金額がマイナスとなっているが、収益事業の安定化についてはどのように考えているか。</p> <p>回答：会費は正会員と賛助会員からそれぞれ集めており、賛助会員の会費は寄附的な意味合いがあるが、事業に手一杯で賛助会員を増やす努力をあまりしていないのは難点だと思っている。会計士と相談しながら収益を安定的に確保できるように努力したいと考えている。別途、国の子育て支援法人の指定を受け、2019 年度からは国から交付金をもらえるようになり、ここ数年は安定的に運営できるようになっている。</p> <p>質問：SDGs にどのように取り組むかについて、提案書では具体的にどのように触れているか。</p> <p>回答：地域貢献に関する記載の中で、SDGs における「誰 1 人取り残さない」地域社会の実現ということに非常に共感しているので、そのような地域社会を目指していきたいと考えている。</p> <p>質問：ICT をどのように事業に活用していこうと考えているか。</p> <p>回答：案の段階だが、外出しづらい状況にある保護者を対象とした、子育て支援のオンライン相談や講座への Zoom の活用等を考えている。</p> <p>質問：事業実施に当たって、業務マニュアルは作成しているか。</p> <p>回答：全ての管理業務に関して一通り作成し職員に周知しているが、情報セキュリティや個人情報保護、事故が起きた場合の対応については、特に丁寧にマニュアルを作成し直している。</p> <p>質問：自主事業収入等の確保に対する取組のところで、民間助成金の活用とあるが、どのようなものがあるか。</p> <p>回答：アイシン、ブラザー等、民間企業がやっている社会貢献活動や、地域活動の助成制度を活用している。</p> <p>質問：日進市でコミュニティ形成の必要性、ファミリー同士を地域でつなぐニーズが、これから出てくると思うか。</p> <p>回答：今の段階ではそういうニーズがあるという想定はなく、ファミリー同士を意図してつなぐことは難しいと思うが、結果としてファミリー同士が仲良くなり、個別につながっていく可能性はあると思う。</p>
	<p>審査の後、答申を実施した。(閉会 午後 3 時 30 分)</p>